

.....●●県民が歌いあげる歓喜の大合唱●●.....

Beethoven

## 交響曲第九番(合唱付)

交響 譚詩(作・伊福部 昭)

指揮：土肥 泰

演奏：新星日本交響楽団

合唱：埼玉第九合唱団

終曲の合唱『歓喜に寄す』 F・ミラー原詩  
渡辺鏡子 訳詩

- (独 唱) おお友よこの音やめて いざ歌おうてはないか 喜びに満ちた歌を  
(この部分ベートーベン)  
喜びこそは神々の火花 われらを迎える楽士の乙女 その手に結ばれわけへだてなくすべての人々皆友となる
- (合 唱) その手に結ばれわけへだてなくすべての人々皆友となる
- (四重奏) 一人の友得て喜びあふれ やさしい愛得た者も歌えよ  
喜び歌えよ友持つものよ 友かち得ぬ者ひそかにされよ
- (合 唱) 喜び歌えよ友持つものよ 友かち得ぬ者ひそかにされよ
- (四重奏) 喜びを自然の胸から受けて 善し悪しすべてはバラの道をたどる  
くちづけと良き友われらに与えられ 虫にも喜びがあり天使は神の前に
- (合 唱) くちづけ良き友われらに与えられ 虫にも喜びあり 天使は神の前に天使ケルブ  
神の前に
- (独 唱) いざ行けうれしげに大空の天つ日その輝をかけるように行けよ 君らの道を  
行けよ友よ 君らの道を勝利に向う英雄のごとく 行けよ君らの道を
- (合 唱) 行けよ友よ君らの道を勝利に向かう英雄のごとく楽しく
- (合 唱) 喜びこそは神々の火花われらを迎える楽士の乙女 その手に結ばれわけへだてなくすべての人々皆友となる
- (合 唱) もろびと抱け口付世界にもろびと抱けよ口付世界に / 友よ、星空に父なる神あり  
ひれ伏すかもろ入よ、神に気づくか  
神を求めよ星空の上に、かなたに神あり
- (合 唱) 喜びこそは神々の火花、われらを迎える楽士の乙女  
もろびと抱けよくちづけ受けよ歌えその気高きところ
- (合 唱) ひれ伏すかもろびと神に気づくか 星空高く 友よ 星空に父なる神あり
- (四重奏) 喜び楽士の乙女 その手に結ばれわけへだてなく
- (合 唱) その手に結ばれわけへだてなく全ての人々皆友となる
- (四重奏) すべての人みな友その胸のもとに
- (合 唱) もろびといだけよ口づけ受けよ 友よ星空に父なる神あり 抱けよもろびとく  
ちづけ受けよ、世界よ 全世界よ  
歌え 喜び、神の火、神の火花、楽士の乙女、喜び、神の火花よ

「第九」公演の御成功をノ  
埼玉県知事 畑 和  
県民の「第九」を目指す  
合唱運動は、今年で四年目  
を迎えますが、更に大きな  
共感の輪を広げられるよう  
期待しています。

「聴く」から「行う」へ

指揮者 土肥 泰

音楽は自分の体で音を創  
り出して、その美しさや躍  
動感・力感を味わう事に本  
来の意義があるのです。音  
楽を聴く楽しみを否定する  
ものではありませんが、そ  
れには生命のある生き生き  
とした音を感じる事があつ  
ても、自分で音を創り出す  
喜びがありません。やはり  
音楽は「聴く」だけでは充  
分な実践でなく、「行う」  
(演奏する)と云う行為に  
達する事によって初めて音  
楽の美しさや楽しさに接し  
得るものなのです。

今日合唱を披露してくれ  
る皆さんは、専門的技術を  
持っている訳ではありません  
。而し音楽を自分の体で

## 第九公演に よせて



力一杯歌い上げてみよう、  
音楽する喜びを思う存分味  
わってみたい、と云う純粋  
な気持ちと情熱を「第九」  
にぶつけた点で、専門家の  
合唱ではなかなか味わえな  
いみずみずしさと、巨大な  
エネルギーがあります。  
大きく発展できる可能性  
と、若々しい力を持った此  
の合唱団を、これからも温  
い目で見守っていただきた  
いと思います。

「第九交響曲」の

合唱を指導して

合唱指導 田尻明規

その日私はちよつとした  
用事のために、十分程おく  
れて練習会場についた。車  
からはなれようとすると例  
の合唱がもうはじまってい  
る。ばかにうまい。しかし  
よく気をつけて聞いてみる  
と、それは私のすぐあとか  
ら入ってきた団員の車から  
聞こえてきていたのだった。  
なにか熱いものが私の胸を  
よぎった。

合唱の練習は正直のとき

ろやりにくいことも多かつ  
た。譜面なしでも歌える人  
と、全くその反対の人とか  
一語に練習しようというの  
だから。そうならばそのど  
ちらに合わせたものか誰し  
も迷うにちがいない。しか  
しその先のような場面に出  
くわすたびに、頭ばらねば  
と励まされたのであった。

埼玉音楽協会 大江信男

みなさんこんばんわ

私たちは今日4回目の「  
県民による第九」を埼玉音  
楽協会の音楽会として公演  
することができました。2  
回目からは県内の音楽家と  
協力をしようという目標で  
実行してきましたが、いず  
れも成功させることができ  
ました。今回の公演も、指  
揮の土肥先生、ソリストの  
方々、合唱指導の田尻・神  
田両先生、ピアノの中村先  
生、団員の方々、それに川  
越・県北の仲間達、新星日  
本文楽団など本場に多く  
の方々、埼玉音楽協会の協力で  
実現することができ、大変

うれしく思っております。  
このことをみなさんにも、  
是非御理解いただきたいと  
思います。

当然のことながら県内に  
もすぐれた音楽家が数多く  
おられますが、県内での演  
奏活動は非常にできにくい  
のが現状です。私達は、「  
県民による第九を」から生  
まれた、この地元を根ざし  
た演奏活動をさらに大きく  
発展させることを願ひ、地  
元の演奏家を招いて、八十  
〇百人程の会場で、新しい  
コミュニケーションを求め  
た「サロンコンサート」も  
開いてきております。また  
来年7月2日には、県民の  
力を合せたコンサート型式  
の「カルメン」を日本フイ  
ルハーモニーと共に公演す  
ることも決定し、今準備を  
進めております。

今后もこのような考えに  
基づいて、クラシック音楽  
がもっと身近かなものとな  
るよう、皆さんと一緒に、  
努力していきたいと思いま  
す。よろしく……………。

# Beethoven

## 第九番(合唱付)

### 出演者のプロフィール



指揮 土肥 泰

東京芸術大学作曲科及び専攻科卒業。ユネスコ日本国内委員会、ユネスコ国際音楽評議会、日本音楽著作権協会、作曲五人会、詩と

音楽の会各会員。埼玉県音楽家協会役員。昭和35・37・39年TBS賞国際作曲コンクール特別賞受賞。主な作品「交響曲——梵唱変容」「效楽三章」等。昭和49・50年の「第九交響曲」昭和50年の歌劇「夕鶴」の県内公演の指揮をする。  
作曲家及び指揮者。



ソプラノ

黒川 和子

東京芸術大学卒業。同大学院オペラ科修了。第七回日伊コンソルトソ第一位入賞。労音オペラ「トスカ」で主演を演ずる。埼玉音協主催の第九公演は昨年引き続き二回目。二期会々員。



アルト

藤田 みどり

東京芸術大学声楽科卒業。第二十七回音楽コンクール声楽部門第二位入賞。オペラ「オラトリオ」並びにコンサートシンガールの分野で活躍。過去四回渡米し、各地でリサイタルを行い好評を博す。埼玉音協主催の第九公演は黒川氏同様二回目の出演。  
二期会会員。



バリトン

丹羽 勝彦

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修了。芸大オペラ・モーツァルト作曲「フィガロの結婚」でデビュー。



テノール

藤沼 昭彦

東京芸術大学卒業。同大学院修了。西ベルリン大学留学。リート、オペラ、オラトリオを学び最優秀で卒業。本年七月、埼玉音協主催のサロン・コンサート、ドイツ・リート・歌曲のタペに出演。埼玉の第九は昨年に続き二回目。武蔵野音大助教。二期会会員。



演奏  
新星日本交響楽団

新星日本交響楽団、芸大国立、武蔵野音大出身者を中心に七年前に誕生、現在は楽員四十五名で、年四回の定期演奏会のほかオペラパレエの演奏、学校公演などに活躍。自主運営に徹し既成のオーケストラの公演活動とは異なり、地味ではあるが、着実に活動を継続し、今やプロフェッショナルなオーケストラとしての地位を築いている。

団伊久磨作曲「オペラ・夕鶴」の惣と役を熱演、好評を博す。埼玉県音楽家協会会員。二期会会員。埼玉大学教育学部助教。

## 曲目紹介

### 第九番「歓喜のうた」

ベートーベンは一八一五年十月、心をゆるした友人のマリー・エルデッティに人は苦悩と歓喜のために生まれてきたのであり、最もすぐれた人間は苦悩をつきぬけて歓喜を手にするのだという。有名な言葉を書き贈りました。その苦悩が第五におけるベートーベン個人のものを超えて、彼、全存在をつつみこんでいる社会の根本の問題にまで拡大されてゆくのです。

第九は、第三章までは第五におけると同じゆき方つまり「苦悩をつきぬけて歓喜を」の方式でつくられてゆきます。第三章の美しいきわみの音楽は、聞いてよって手にしえた理想の楽園をあらわすのでしゅう。本来ならばこの交響曲は、これで終っても十分いいたいことはいいつくしていると思われます。普通ならこのあとにくる第四楽章は、すでにえられた喜びの楽園をうけつぎ、それをさらに高くうたいあげれば幸いです。しかし彼は、それでは満足できず、さらに高い度合で平和の敵に対する勝利を声たからかに歌い上げたかったのです。しかもそりいった勝利は、そして喜びにみだされた楽園は、現実には押しつぶされ、窒息させられているのが現状です。ベートーベンの生活と環境のうちには、喜びのひとかけらも見出せない程です。そういふみじめなところにおしこめられている人たちが、どうやって生きる喜びをつかむか、またそのように自由をおしころして平和と歓喜とを遠ざけていふ邪悪な力に対する闘いの呼びかけ、これがベートーベンのしたいと考えた内容であり、それを第四楽章のシラーの詩をつかった喜びの讃歌がなしかせられたのでした。

### 「交響詩」

伊福部昭の初期における注目された作品です。一九四三年の夏完成とともに、ビクターレコードの懸賞第一位に入賞しました。初演は山田一雄の指揮で行われこの年の文部大臣賞が与えられました。

これは2管の編成で、日本の祭礼の舞曲のリズムが強調された急速なテンポの第一部と、哀愁を含んだ民謡的なメロディアスな主題で具現されているゆるやかなテンポの第二部に分かれています。主題はすべて作曲者の創作で、特定の曲題または舞曲をそのまま使ったとはいえないが、「いつまでどこかで聞いたことのあるような」メロディとリズムが入り乱れています。作曲者はそれについて「われわれに内在しているが、まだうたわれたことのない歌声を喚起したい。」と言っています。尚、氏は東京音大で学長。演奏時間約15分。

### 紹介 ・合唱指揮

### 田尻明規

昭和三十三年埼玉大学教育学部音楽科卒。石渡日出夫氏、野辺地勝久氏に師事。埼玉県合唱連盟理事、県音楽家協会所属。現在、県立大宮高校教諭、昭和四十九年、大宮高校音楽部による「レクイエム」を指揮。埼玉第九合唱団創立最初の指導者であり、今回も熱心な御指導をいただいた。



### ・ピアノ

### 中村恵子

埼玉大学教育学部音楽科卒業。ピアノを近藤端枝、池田浩、三村精一、諸氏に師事。音楽グループ「葵の会」同人。現在、県立岩槻商業高校教諭。



氏、金子一雄氏に師事。在学中はコントラバス、ユーフォニウム担当。現在、県立春日部高校教諭、同校音楽部に於いて合唱、吹奏部の指導にあたっている。

### 神田武寿

昭和四十一年 埼玉大学教育学部音楽科卒 土肥泰



# 第九合唱団員名簿

川越第九合唱団、県北第九合唱団の方々にも応援して頂きました。

## ちよつと一言

本番二週間前、長いようで短かったこの半年間、みんなの心境は今……。●これ程の大曲に参加できること、とっても幸わせないと思います。だけでもまだ全部は暗記できてないの。今から胸がドキドキ。

●最初の年は不安と期待の入り混った複雑な気持ちだったけれど、三年目ともなると年中行事?かな。

●本番の写真、ハンサムにとれるとイイけどな。

●自分で参加すること、これが音楽を楽しむうえで最高の贅沢だと思う。だからオーケストラをバックに

しかも第九が歌えるなんて夢のような話し、本番が待ち遠しい。

●期末テストの最後の日なんです。試験も心配、本番も心配。だけど続けてきてよかったです。

日下田美恵子、田中マエ子、都丸勝代、寺尾安子、岡田京子、戸川静子、加藤良恵、鳥羽京子、森田敦子、久保田朱美、橋本成子、八木橋弘子、渋谷香織、黒巢弘子、池田新絵、伊藤恵美子、平田はるみ、神田敏子、高橋素子子、大竹志津子、高垣幸子、高橋節子  
テノール  
飯ヶ浜長次、三村隆男、阿部和幸、米本敬一、渡辺明夫、関根清一、浅野泰、三村徹、中沢修、神田武寿、配島秀雄、高橋光男、岩崎拓夫、高橋敏也、原野晴義、根本力政、高安良実、辻浦牧人、山崎武、梅林寺育、大塚正充、青木康夫  
バス  
岩崎清男、臼井良秀、高橋和雄、桜井圭介、武内康展、永井俊克、城石幸保、倉繁健一、佐々間栄二、入江大丞、貝原勇治、沼野功、酒井洋昌、吉山三郎、岡田稔、土川幹、伊藤正文、早乙女勤、松山太朗、関口茂、金井良次

ソプラノ  
八板いずみ、白石恵美子、羽兼悦子、栗原美代子、野村恭子、八坂ひかり、藤高京子、吉田典子、榎本重子、田島明子、酒井春子、山田久子、堀江道子、門間光子、藤田道恵、栗原陽子、米倉三千代、真木恭子、佐々木崇代、久保田直子、高杉成子、吉野のり子、大江美智子、森岡和子、溝口松江、石川真理子、山田早苗、今泉節子、羽島祐子、松井きみ子、山田恵子、石川由紀江、税田律子、国峰恵子、木暮和子、八木沼栄美子、田中紀子  
アルト

粕谷いづみ、小出初美、飯ヶ浜淑子、堀江君江、長島雅枝、沢原光、三浦和子、岩井幸子、梅津公子、三田ゆかり、高橋美知子、斉藤光子、石川恵美子、小川せい子、富沢洋子、大沢英子、

## “ふれあい”コンサート 芹 洋子 とともに

1月18日(火)  
大宮市民会館  
開演 6:30

会費 A席/2200円 B席/1900円 入会金 100円

### 『四季の歌』

最近彼女の「四季の歌」が静かなヒットをとほしています。たしかかな手応えのある心の歌を歌いつづけてきた彼女にとって、それはうれしいことにちがいないかもしれません。

「今まで各労音で歌唱指導してきた歌が、この『四季の歌』なんです。おもしろいことに、この曲の歌われ方が、各労音によって少しずつ違うんですね。そういつたところが、私たちの中から生まれてきた歌だと証明するようなできごとだと思ふんです。」

春を愛する人は

心 清き人

すみれの花のような

ほくの友たち

